

平成29年度小松島市重要事業実施に伴う政策等の形成過程説明シート

事務事業名	小松島南部地区都市再生整備事業			整理番号	—
				担当課係	まちづくり推進課
事業予算費目	款	8	土木費	記入者職・氏名	
	項	7	都市計画費	内線等	232
	目	5	高速道路対策費	事業区分	臨時事業
	大事業	4	小松島南部地区都市再生整備事業	事業期間	期間限定複数年度 平成 29 年 ～ 32 年度
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				
根拠法令等	道路法、農地法、農業振興地域の整備に関する法律、災害対策基本法等				

■事業の概要・全体計画等（政策の発生源、提案に至るまでの理由）

本市南部に位置する「立江櫛淵地区」は、全域が市街化調整区域に指定されており、農地、山林などの自然的環境と、四国八十八ヶ所霊場の十九番札所「立江寺」や国史跡指定の「阿波遍路道」などの歴史的建造物や史跡の資源を有するなど歴史・文化を合わせ持つ地区であります。平成26年3月策定の都市計画マスタープランにおいても、豊かな農地と自然、地域資源を活かした、地域産業の活性化や人が交流すること及び防災対策等を将来目標に設定しております。また、現在国による整備が進む四国横断自動車道（新直轄方式）のうち、本市及び近傍市町が要望する当該地区への追加（地域活性化）インターチェンジ設置の実現化においては、市内外を結びつけた「ヒト・モノ」の交流による、新しい魅力を創出することにより、地域の元気を創る拠点となる地域振興施設等の整備を目指すとともに、さらに近年、「南海トラフ巨大地震・津波」の発生が危惧されるなかで、防災拠点として地域住民の安全・安心の確保にも繋がるなど、高速道路を活かし、「地域とともにつくる個性豊かな賑わい創出」のまちづくりを具現化するものであります。

事業の内容	手段（計画している主な活動の内容、手段、手順）
	立江・檜淵地区への追加インターチェンジ設置の実現に向け、当該地区が有する地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し、地域外から活力を呼び、雇用を創出し、地域の好循環を生む地方創生の拠点となる地域振興施設整備を目指します。平成２９年度は、地域振興施設等設置の具現化に向けた、地域の現況把握、課題、課題解決の方向性等の検討、さらには地域のまちづくり基本方針等を示す有識者会議等を設置し、今後の整備内容や運営管理等までの具体的な整備計画を策定し、３０年度以降の事業採択に向けて道路管理者との一体的な取り組みを進めるものであります。
事業の目的	効果（事業実施によってどういう状態・結果に結びつけるか）
	地域外から活力を呼び「ゲートウェイ型」及び地域の元気を創る「地域センター型」などの新たな地域振興施設の設置により、「まち」の特産物や観光資源を活かして「ひと」を呼び、地域に「しごと」を生み出す、地方創生の拠点とする取り組みを、市民や関係機関等と共に進めることにより、四国横断自動車道（新直轄方式）のうち立江・檜淵地区への追加（地域活性化）ＩＣ設置の実現化に繋がり、地方の活性化及び人口減少の克服を図るものであります。

■総合計画(前期基本計画)との整合性

事業目的が総合計画(前期基本計画)上の施策に結びついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> いる	総合計画(前期基本計画)上の位置付け	基本目標	2. 快適な暮らしづくり
	<input type="checkbox"/> いない		大項目	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり
			中項目	2-1 快適な生活・都市基盤の整備
			小項目	高速交通ネットワークの早期整備

(理由)

四国8の字ネットワークの一部を形成する四国横断自動車道（阿南・徳島東間）は、地域の活性化をはじめ、平時の救命救急や災害時の緊急輸送道路となる「命の道」として、重要な役割を果たすことが期待されております。また、近年、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるための快適な空間や、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用した多様な個性豊かなサービスを提供するなど、道路が有する新たな価値の創造「地域振興施設」が望まれています。新たな空間を確保することによって、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も見込まれております。また、地域活性化インターチェンジの設置については、高速道路の有効活用と、一般道路の渋滞緩和や地域の活性化を図るなど、地域資源を活かした将来のまちづくりを展望するうえで必要不可欠な社会基盤であることから、その実現に向け積極的な取り組みを進めます。

■他の自治体の類似する政策との比較検討

地域振興施設の代表的な施設として「道の駅」が挙げられますが、道の駅は国土交通省により登録された休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設であり、全国の主要道路に設けられ、それぞれに地域の特色や個性があるのが特徴であります。道の駅は、道路利用者のための「休憩施設」、道路利用者や地域住民のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに都市と地方が手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ休憩施設として整備されております。なお、2014年4月4日に全国での登録箇所は「1,030箇所」となっており、その数は依然として増加を続けている状況であります。県内での道の駅は「15駅」、地域振興施設は「15箇所」が運営されています。現在、徳島市、美馬市が新規整備中であり、施設建設までに、基本構想、基本計画時において、広く市民の意見を求めるため、まちづくりに造詣の深い大学教授や各種団体、地域代表者等による有識者会議を設け、複数の関係機関の制度を連携して方向性を定めています。また近年では、役場機能（子育て世代活動支援センター等）や地域公共交通ネットワークの乗継拠点（パークアンドライド）等の地域福祉施設などの機能を兼ね備えるタイプもあります。

■市民参加の実施の有無とその内容 (有)・無) ○を入れてください。

事業の対象	対象（誰、何を対象にしているのか）
	四国横断自動車道「阿南・徳島東間」のうち立江・榑瀨地区を対象地域としているため、立江・榑瀨地区をはじめ、坂野・和田島・新開地区の市民、企業者（就業者）、近郊市町関係者及び高速道路利用者等
事業の意図	意図（事業の狙いはなにか、対象をどう変えるのか）
	四国横断自動車道を中心とした周辺地域のまちづくりの方向性を定め、地域のみならず、市全体の防災・減災対策、産業等の活性化、移住・定住・交流等に市民と一体的に取り組めます。
事業に対する関係者から要望等意見はどのようなものが寄せられているか	（市民、議会、事業対象者、意識調査等事業関係者からどのような意見・要望があるか）
	平成23年度に、国・県・市及び立江・榑瀨対策協議会の4者で調印した設計協議の要望事項の一つであります。また、平成26年8月開催の※徳島県南部地区四国横断自動車道建設促進期成同盟会の総会において、勝浦町、上勝町からも、立江・榑瀨地区への追加インターチェンジ設置の必要性については提起され、平成27年8月の同総会において追加IC設置に向けた国・県への要望事項の一つとして承認された事業であります。※小松島市、阿南市、勝浦町、上勝町、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町の2市6町で構成、総会は市長、町長及び議会議長で構成
事業を取り巻く状況等は、今後どう変化しますか？	（社会状況、根拠法令、規制緩和、周辺の状況等は今後どのように変化していくか）
	平成26年度から国土交通省が地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を支援する、重点「道の駅」のモデル選定を実施している。27年度には全国で38箇所の道の駅が選定されています。

■事務事業に係るコスト・財源措置・将来に渡るコスト計算、有効性について

			全体計画	29年度	30年度	31年度	32年度以降	最終年度	
全体コスト	財源内訳	国 県 支 出 金	0	0	0				
		地 方 債	37,500	0	37,500				
		その他（利用者負担等）	0	0	0				
		一 般 財 源	33,373	20,873	12,500				
	関連事業費	A 直接事業費（千円）	70,873	20,873	50,000	0	0	0	
		人件費	正 規 職 員 数	2.80 人	1.40 人	1.40 人	人	人	人
			職 員 人 件 費 ①	22,138	11,069	11,069			
			臨 時 ・ 嘱 託 職 員 数	0.00 人	0.00 人	0.00 人	人	人	人
			臨 時 ・ 嘱 託 職 員 の 賃 金 等 ②	0	0	0			
		B 人件費計（千円）①+②	22,138	11,069	11,069	0	0	0	
A + B		93,011	31,942	61,069	0	0	0		
有効性について	① この事務事業を行わない場合の影響はありますか？	<input checked="" type="radio"/> ある	理由	四国横断自動車道は、国土強靱化や地域の生産性を向上し、地方創生を実現する礎となる重要な社会資本であり、このうち新直轄方式により平成19年度から工事着手した「阿南・小松島間」は、用地取得が概ね完了したことから、順次、橋梁や函渠工事、盛土工事などの整備が進められ近い将来供用されることが確実であります。このため、供用にあわせ立江・榑瀨地区への追加インターチェンジ設置を実現化するため、地方創生の核となりうる施設を整備することは、本市の地域活性化や交通・物流の利便性、人の交流拠点としても重要な事業となります。					
		<input type="radio"/> a ない							
	② 類似事業との整理統合はできないか？	<input checked="" type="radio"/> できない	理由	事業全体を市単独事業で行うことは困難であり、事業を確実に進めるためには、国庫補助事業で実施する必要があります。（補助対象となる事業以外のみ市負担で行うこととなる。）					
		<input type="radio"/> a できる							
	③ 成果をさらに向上させる余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> ない	理由	地域のまちづくり計画を定める重要な事業であり、現況把握、基本方針等を地域住民、有識者、関係者等を交えて慎重に着実に進めていく必要があります。					
		<input type="radio"/> a ある							
◎改善・効率化・見直しの方向性 ※上記において a を選択した場合、必ず記入してください。									
有効性	①								
	②								
	③								
所属長による総合的なコメント									
四国横断自動車道の供用やインターチェンジ設置に関連する本事業の意義は、地域のまちづくりの発展に寄与する施設を整備することで、近年重要な位置付けとなっている、地方創生拠点を地域の核とし、コンパクトなまち（コミュニティ）の形成や地域のネットワーク化にも繋がるものであり重要な事業であるとする。また、新直轄方式で整備が進む「阿南・小松島間」の供用開始（目標宣言）に大きな役割を担うものとする（国・県ではIC間でのきめ細かな供用開始を図ることにより高速道路による社会資本のストック効果の早期発現、防災機能の向上によるリダンダンシー確保等）。									